

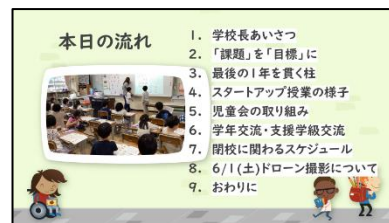
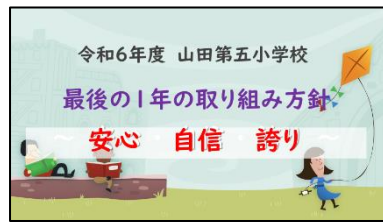
通信

令和6年(2024年)5月29日
吹田市立山田第五小学校
吹田市山田西1-6-1
電話: 6876-7701
FAX: 6876-7721
<http://www2.suita.ed.jp/gak/es/23-yamda/>

青葉の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より、本校教育にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

5月24日(金)に開催した『最後の一年の取り組み方針説明会』の内容をお伝えいたします。

《以下、当日使用のスライドと説明です。》



本日は、お忙しい時間帯にもかかわらずお集まりいただき、誠にありがとうございます。

昨年度末よりお知らせし

ておりましたとおり、本校は、令和6年度末をもって閉校を迎えます。本日は、最後の一年の取り組み方針について、お話ししていきたいと思っております。



本校で行っている教育活動においては、子どもたちの様々な「課題・困りごと」を、「目標やテーマ」に設定して取り組みを行っております。その際の「課題」から「目標」を設定するプロセスについて、まずはお話しいたします。

一般的に「課題・困りごと」と言われるものは、「〇〇できない」とか「〇〇が不十分」といった、マイナス的な表現で定義されます。しかしながら、課題をそのまま裏返して目標に変えればいかというと、決してそうわけではありません。教育においては、この課題と目標の間にこそ、とても重要なプロセスがあります。

具体的に、ご家庭でもよくあるエピソードを例にお話しさせていただきます。

何回言っても忘れ物をしてしまう。また、とっさに躊躇なくごまかす・嘘をつく。これらは、まさしく、子育てにおける「困りごと」です。

この困りごと(課題)である姿を、そのまま裏返して目標に据えようと、「忘れ物をしない」「嘘をつかない」となります。

一見、「目標」の形にはなっていますが、これは、できた時の達成感やモチベーションを考えた時

に、果たしてどうでしょうか？

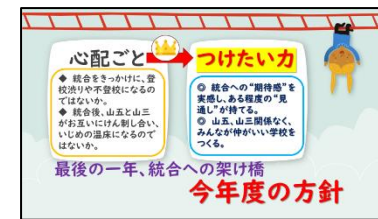
例えば、忘れ物をしなかったとき、「よかったあ」とか「セーフ!」とかは思うかもしれませんが、「やったあー!」とか「すごいね」って褒めてもらえる感じではありません。

そこで、「なりたいたい姿・つけたたい力」をイメージして言い換えます。

「忘れ物をしない」ではなく、「次の日の持ち物を自分で準備したり確認したりできる!」

また、「嘘をつかない」ではなく、「自分をかばったりせずに正直に言った方が、気持ちがかすつきりする!」ここを目標にします。つまり、課題=目標ではなく、共に成長を実感できる「ポジティブイメージ」を目標に据えるということです。

「自己肯定感を育てる」とか、「自己有用感を満たす」とよく言われますが、そこにつながる言葉かけが、今お伝えした辺りの言葉かけになると思います。



次に、このプロセスを、統合に向けての、学校の方針に重ねていきます。まず、子どもたちや、我々教職員を含めた大人が持っている心配事があります。「統合をきっかけに、登校渋りや不登校になるのではないか。」また、「統合後、山五と山三がお互いにけん制し合い、いじめの温床になるのではないか。」

この心配事を、「つけたたい力」という視点で、目指す姿をイメージできる表現に置き換えます。

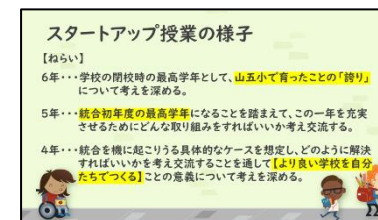
一つは「統合への期待感を実感し、統合に向けての見通しを持つ。」という姿。もう一つは、「山五山三関係なく、みんなが仲がいい、より良い学校をつくるろう!」とする姿。

この二つの姿を、今年度の方針と位置付け、取り組みを展開していきます。



最後の一年を貫く柱として、3つのキーワードを挙げます。1つ目は「安心」、2つ目に「自信」、そして3つ目に「誇り」です。

最後の一年という限られた時間に、統合への安心感と自信を育てることと同時に、閉校に向けての取り組み、そして、統合後、より良い学校を自らの手で作っていかうとする種を植えることを、これらのキーワードに込め、最後の一年を貫く柱としております。



ここから、4月より取り組んだ、スタートアップ授業の様子について、お話しします。

6年生のねらいとしては、「閉校時の最高学年として、山五小で育ったことの「誇り」について考えを深める」と設定しました。

山五小が生まれて39年の歴史を、君たちが最高学年として閉じていくことの意義について考えてもらいました。授業後の感想では、「なんか、めっちゃ責任重大

やな」とか「しっかりしないと」といった感想がありました。

5年生の授業では、「統合初年度の最高学年になることを踏まえて、この一年を充実させるためにどんな取り組みをすればいいか」について考えてもらいました。

5年生は16人という少人数であることもあり、これまで馴染んでこなかった人数感覚に、心配の方が勝っているのだろうという様子がありました。「知らない」ことへの不安と「山五が大好き」「このクラスが安心」という気持ちを、強く感じました。

私は授業の中で、「その気持ちは、山五小としての誇りが、君たちの中にしっかりと根付いているからだよ。」と伝えました。

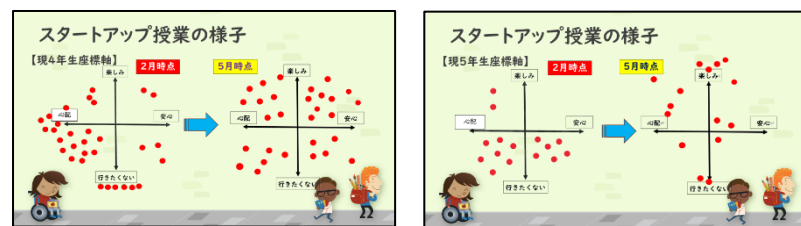
4年生では、「統合を機に起こりうる具体的なケースを想定し、どのように解決すればいいか」を考えさせることをねらいにおいて授業を行いました。

具体的な想定として、体操服に付いている学校のマークを取り上げ、体育の時間にいろんなタイプの体操服の人がいることをイメージさせて、「あなたはどう考えますか？」と投げかけました。

子どもたちは、「山五のマーク、全然つけてもいいと思う」「むしろつけたい」といった、心配に思っている子の気持ちを和らげる意見が多く出ました。

ある児童の感想が、とても印象に残っています。その子は、「私は山五のマークも山三のマークも両方つけたい」と言いました。それはどうしてそう思ったの？と聞くと、「だって、両方の学校に通ってたってことだから」と。

私は「山五とか山三とかに関係なく、まさしく“自分の学校”に対する“誇り”だよね、という話をしました。



これは、座標軸を使って子どもたちの気持ちを視覚化したものです。

左が現4年生、右が現5年生のもので

それぞれのスライドで、左が昨年度の2月に行った時のもの、右が今年度に行ったものです。

横軸の数値では、子どもたちの気持ちが、不安要素が多い状態から、安心に転じてきたことがわかります。交流の取り組みやスタートアップ授業、また、遠足などの学年交流の取り組みなどを通して、子どもたちの安心材料が増えてきたのではないかと分析しています。

縦軸については、やはり山五への愛着が大きいことへの表れであると思いますので、マイナス的な要素としては捉えておりません。

この座標軸ツールを用いた思考活動は、子どもたちの気持ちや考えを、右上のブロックにもっていくことがねらいではありません。

あくまでも一人ひとりが自分の気持ちと向き合い、自己との対話、他者との対話を通して、統合という大きな変化を乗り越えていくきっかけをつかむためのものです。

自分と同じ気持ちの子がいることを知ることで、安心・自信につながっていくと考えます。

【授業後の振り返り】

◆みんな違う意見を持っているのだと思った。◆いろいろな話を聞いて考えてみたけど、「行きたくない・心配」から、「楽しみ・心配」に変わった。◆やっぱり山三行きたくない。◆「楽しみ・安心」が前より増えて、自分も「楽しみ・安心」で、ここまでいるとは思わなくて、安心できると思いました。◆もう山三に行くのは決定してるから、「ほこり」をもって山三に行きたいです。◆いろんな気持ちの人がいるから、その気持ちに「誇り」を持ったらいいと思いました。◆授業のおかげで、山三が楽しみになりました。◆教頭先生の話のおかげで、前より楽しみになった。◆楽しみという人がたくさんいたけど、私はちょっと不安です。◆友達ができると思うからです。◆今年のキーワード「安心」「自信」「誇り」を達成したいと思いました。◆今日の授業を聞いて少し安心が増えたけどまだ納得いっていない。◆いろいろなことが知れた中で、いっぱい話し合いができて面白いです。◆山五で卒業したかった。◆今日の話合いを聞いて、少し安心した。◆教頭先生の話聞いて、山三もいいところなんだなあと思いました。◆山五大好き！確かに心配だけど、このキーワード「安心」「自信」「ほこらしい」のおかげで、心配が少し減った。◆本当に行きたくない！山五大好き。なんで山三に行かないといけなの？大人だけで勝手に決めないで。◆体操服に山五のマークが付いていてもいいと思います。新しく買ったら無駄遣いになってしまったくないから。◆保育園の友達とあうのは楽しみだけど、少し心配です。◆自分に誇りを持てば、心配しなくても安心できる。◆5年生で山三と一緒にいても、友だちが増えるからとても楽しみ。◆気持ちは3年の時と変わらないけど、少しだけ不安はなくなった。◆前は「楽しみ・心配」にしていたけど、今回は「楽しみ・安心」の方にできて良かった。◆僕はやっぱり楽しみだと思えます。なぜかという新しい友達ができるからです。◆体操服は、山五のでも山三のでもいいと思う山三でも山五のを着れたらうれしい。◆統合したとき、幼稚園のときの友達がいたらうれしい。◆山三に行くのはいやだけど、友だちは作れるなあと思った。

色を分けて載せています。心配が大きいと思われる意見に、赤色、反対に、安心材料を実感していると思われる意見に青色、どちらにも寄り添っている意見には緑色をつけています。

色分けの作業をしながら感じたことは、一色ではなく、プラスとマイナスが混在している子どもが多いということです。

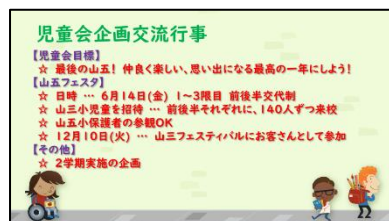
これこそ、リアルな子どもの気持ちだと思います。どちらかを否定することで進むのではなく、両極を行き来することが、「安心・自信・誇り」の芽を育てていくと考えます。

最後に載っている子どもの意見を読み上げます。「山三に行くのはいやだけど、友だちは作れるかなあと思った。」

この子もプラスとマイナスが混在しています。おそらく、今の時点では統合が嫌だという正直な

気持ちなんだろうと思います。しかしながら、この子が、この順番で気持ちを書いていることに、心を打たれました。

マイナスからプラスへ、この子なりのよりよい明日へ向かおうとする決意を強く感じました。



次に、閉校・統合に関する児童会の取り組みについて説明いたします。昨年度、保護者の方々からいただいたご意見でも、交流の機会を多くもってほしいというご意見をたくさんいただきました。学校としましても、子どもたちの安心材料を増やすためには、交流事業が必須と考えています。

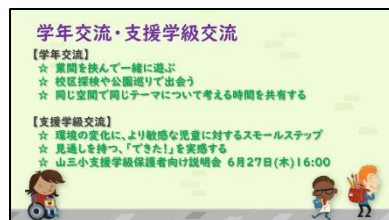
今年度の児童会目標は「最後の山五！仲良く楽しい、思い出になる最高の一年にしよう！」です。これは、代表委員会の子どもたちに、「どんな言葉を入れたい？」と投げかけ、出された言葉をつなぎ合わせながら、6年生を中心に作り上げた目標です。自分たちがリーダーとして、どんな学校をつくりたいか、どんな一年にしたいかという、本来あるべき目標設定の視点で作った、とても価値ある目標だと思います。

一学期の大きな児童会行事として、山五フェスタがあります。日時は6月14日(金)、前半後半でお客さんと店番を交代して楽しめます。

今年の山五フェスタは、山三小の子どもたちも、お客さんとして招待して開催します。これも、昨年度3学期に行っていたZOOMでの児童会の先行交流で出てきていた企画です。また、12月には山三のフェスティバルがあるので、そこにはお客さんで招待してもらう予定です。

例年通り、保護者の皆様の参加も歓迎ですので、山五小の子どもたちが山三小の子どもたちとどう関わっているかを、ぜひ見ていただけたらと思います。

また、2学期にも、児童会企画での合同行事を考えていく計画をしています。基本は、遊びを通して交流をしていきます。



4月5日入学式の日、令和6年度新体制となって1回目の、教職員の2校合同研修会を行いました。各学年や専科・担当同士で顔合わせを行い、児童の様子や今後の交流の予定について話をしました。

その後は、管理職を通して学年同士の交流の日程等の調整をしながら進めていたのですが、それがかえって、フットワークを重くしてしまう原因になってしまいました。そこで、現在は、両校の学年担当同士で直接連絡を密にとりながら、様々な取り組みを進めています。

そうすることで、先生方の日々の教材研究や行事計画・運営の視点に、「これって山三と合同ですの方がいいよね。」とか、反対に「これは山五だけでがっつり取り組もうよ。」というように、学習

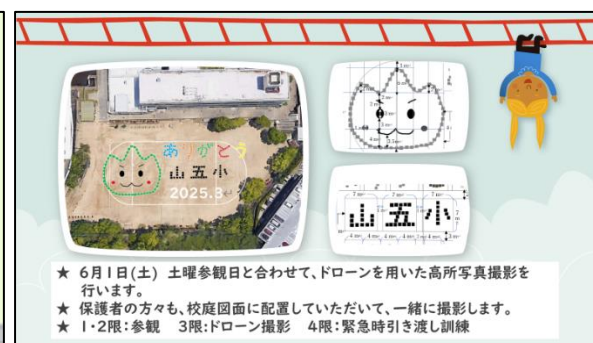
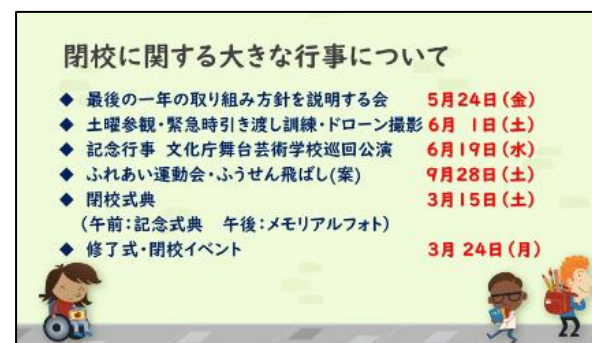
や行事本来のねらいに立ち返る姿勢が生まれています。

これは、閉校・統合に直面した本校の教職員だからこそ気付けたのだと思います。我々大人、教職員の主体性が、スムーズな統合への安心・自信・誇りにもつながっていくと考えます。

支援学級の交流の取り組みも、別立てで進めています。安心・自信の面でのサポートができるよう、スモールステップを設定しながら個に応じた支援を行っていきます。

特別支援コーディネーターを窓口にも、両校の児童の様子を交流しながら、慎重かつ着実に計画立てて進めていきます。

6月27日(木)には、山三小支援学級保護者説明会(山五小保護者対象)を予定しております。



《ここからは、質疑応答についての記録です。》

【質疑応答】

Q. 前回説明会にて、児童へのしわ寄せがないようにとお願いしたが、すごく子供たちが頑張らされているイメージがある。市教委はどういう配置をしたのか？教頭が2名でなく、特別支援Coと統合加配が兼任ということも軽くみられたなど。山五の子供たち先生たちの頑張りは見えるが、山三の熱意はどのくらいなのか。

A. 教頭が2名の配置は元々なかったと聞いている。統合加配1名(今年度は山五、来年度は山三)つく。市費の統合加配が1名配置される予定であったが、元管理職というしぼりがあった。しかし、現実には事務処理がたくさんあるため、元管理職というしぼりではなく、事務処理できる人を配置してくれるように面接をしてもらっているところ。近々配置される予定と聞いている。山五と山三の熱量は同じ、入学式後に山三小の教員が山五にきて交流し、どうしていくことがいいのかを共に考え、常に話を密にしている。目に見えて中々伝わりにくい部分あるかもしれないが、それぞれのHPにアップしブログなどを通して双方の様子が知れるようにしているので見ていただければ。

Q. 山三での子供たちにどのような活動をしてもらえるのか？山三保護者へのアプローチはどうしているのか？高学年での交流は盛んだが、低学年は今後どうなるのか？うちの子は、遠足当日に参加で

きなかった。休んだ児童に対するフォローや低学年だから大丈夫ということでもない。低学年でも不安な子はいる。

A. 山三校長からは、一人の教員が自分の担当のクラスの子供を見るのではなく、一つの学年の児童を多くの教員の目で見られるように意識改革を進めていると聞いている。低学年は今年のフォローアップ授業で、不安に対する度合いがそれほど高くないと分析していたので、これからの学年交流を積み重ねることでもいいのではないかと考えている。4月の遠足では、お弁当も一緒に楽しそうに食べる姿も見た。参加できなかった児童に対するフォローも今後考えていく。

Q. 遠足に合同で行ったが、子どもからは「全く交流ができなかった。関わるのがなかった。」と聞いている。今後の3回の行事でどう交流をしてくれるのか？

A. 遠足では、向こうで合流する形をとり、その場でも山三の児童と必ず話さない、お弁当と一緒に食べない、こうしなさいという形はとっていない。今回は一緒に空間にいたという形をとり、あえて自由にしていよとしたため、お子さんの中にはあまり話せなかったという子もいると思うが、今後回数を重ねることで交流も深められるのでは。3回だけではなく、今後話をしながらこれは一緒にできるのでは？という行事の機会を増やしていく予定。

Q. 通学がこれまでの倍かかる児童が多く、また抜け道で車が多い。通学路の整備についてどう考えているのか？

A. 市教委から、先日封書で案内をさせてもらっている。意見を回答してほしい。現案お知らせしている通学路を考えているが、またわかり次第お知らせする。

Q. 交流の今後の予定、年間どのくらいする予定なのか。2.3学期学級閉鎖などがあった時にどう対応するのか？

A. 年何回するかは、進んでいく中で今後検討しながら進めていくため、はっきりと何回とお伝え出来ない。音楽会などは別々に考えている。なんでも一緒にというわけではない。

Q. 山三小という名称の変更について市教委からの回答はあるのか。新しい学校という形で説明をしてほしい。

A. 市教委からの回答については、保護者への回答は早いほうがということは教育未来創生室には伝えている。いつ回答があるかは学校としてはわからないため回答することが難しいが学校としては伝えている。

Q. 教員への負担が大きいのではないか。

A. 学習をつぶしてまでは、交流をすることはなく、山五も山三も児童のためにできることをやろうということをやっているため負担ということではない。

Q. 統合へのプロセスに根拠はあるのか？他市の事例やガイドラインがあってそれに沿って行っているのか？それとも、先生たちが「これいいよね。」というレベルでやっているのか？

A. 統廃合が全国でも多くの学校があるわけではないので、プロセスが決まっているわけではなく、私たちが短期目標でできることを手探りで、学習もつぶすことをなく、一所懸命している。

Q. 今年の年間の交流事業の計画がわからないということは昨年聞いていたことと違う。新年度になったら説明をしてくれるとあったのに、わからないと不透明なことばかりで。それで大丈夫と言われても納得できない。雑だなという印象。座標軸で、来年3月の時点でマイナスが多くあった時はどうするのか？また、うまく行って2・3人として、そういう子がいたときに座標軸だけ見て言われても具体的ではない。

A. 子供は、「山三に行きたくない。」など心配なことがあって当たり前である。その中で様々な前向きな声かけをしていってほしい。私たち大人が『不安よね』と言うと子供も『そうか、そうなのか。』と思いがち、大人が大人の世界で色々思っていたとしても、「大丈夫だよ」と身近な大人が前向きな声かけをしていってほしい。教員もこれまで、いろんな思いを抱きながら日々子どもと向き合っている。市の決定が出された時点で一人でも多くの児童が楽しみに行けるようにしていきたいと一生懸命がんばっている。そこはご理解いただきたい。児童会でもドッチボール大会と一緒にという方向動いているが、子供によっては積極的に交流したいという子もあれば、反対の場合もある。それを担任が子供の様子を見ながら、双方の子供に負担がかからないように、山三の教員も一緒に丁寧に山五の様子を聞きながら、考えて進めている。ご理解いただきたい。

Q. 校長と教頭とはたくさん話をさせてもらっているので、いろいろしてくれていることはわかっているが、昨年の説明と今年の説明が違うことが多すぎる。教育委員会がブラックボックスすぎて皆さんが寄せている意見もわからない。今回の通学路についても「参考にします。」で、出されたみんなの意見がどう思っているのかさえ保護者には全く分からない。教育委員会は回答すべき！教育委員会はパブリックコメントも全無視している。先生を信じていないわけではなく、行政を信じていない。そこをわかって欲しい。ぜひ、要望をして欲しい

A. 市教委に伝えておく。3学期に山三小で学校公開を行う（オープンスクール）、また、2月の新入生に対して説明会をした後に、山五小保護者に対して説明会を行うと山三小校長から聞いているので、ぜひ参加していただければ。

Q. 自分も主人も教員の立場としてわかることが多い。今回の統合の件おかしいよねと同僚とも同様に話している。授業をつぶさないで欲しいという保護者がいるということで授業時間に一切交流をしないということだが、低学年の生活科、3年以降には総合や特活などの授業があるのにそこをないと言うのが、ごまかしているようにしか聞こえない。先生を疑うわけではないができることはあるのにもっとそういう授業時間を活用ができるのではないか。そこを行事しかないというのは残念。特活こそ今の山五の子たちに一番必要な統合に向けて使える時間なのではないか？行事だけではなく、もっと積極的に交流を実施すべきでは？また、今日も私たちが仕事休んで来ている。先

生の勤務時間のこともあるからこの時間というのはわかるが、山五山三の先生がそろってないことが残念。次回は来てくださるのではなく、合同で山三の先生の意見と山五の先生の熱意が同じなのか、スライドも合同のものを作って欲しい。保護者としてもそういうことを望んでいる、今回は違ったので、保護者や子供の意見をもっと吸い上げてほしい。

A. 言葉足らずで申し訳なかった。先ほどもお話ししたように、すでに5年生は特活を合同で行っている。行事でしかないというわけではなく、「これは一緒にできるね。」とか、「これは別々がいかな。」とか、常に話し合いながら子供たちが少しでも安心できるように進めている。これからどんどん回数を重ねていくなかで、交流をたくさん増やしていければと思っている。また、これからも意見を教えていただければありがたい。

Q. プロセスは市教委のアドバイスはなく、教員のみで試行錯誤しながら考えているのか？この説明会の資料を用意してほしかった。わが子も後ろ向きだった。しかし家では、統合が決まって後ろ向きな話は一切していない。ひたすら子供に前向きな言葉がけをしている。また、教育委員会の会なども一緒に参加している。子供ながらに色々考えているようで、会の帰りの第一声が「ママたちは一生懸命意見していたけど教育委員会は誠意がなかったね。」と、市教委に対して不信感をもってた。親としては前向きな話しかしていないが現実には難しい部分がある。高学年であるがゆえの、どう乗り越えていくか模索していきたい。前向きな言葉がけだけでどうこうできることではないことを知っておいてほしい。

A. もちろん交流すれば全員前向きになるかと言えばそういうわけではないことは理解している。そういうことがまず基本で、その中でも子供たちは、いろんな気持ち、不安な気持ちを持つ子もいると思うが、来年4月にはもう統合することは決まっている。私たちは子供たちの気持ちを聞きながら、進めていくしかない。また、状況を見ながら個別に担任が気持ちに寄り添って対応していく。

- ★ 各学年の交流事業は、今後も PDCA（計画・実行・測定・改善）サイクルを何周も回しながら、止めることなく進んでいきます。
- ★ 1・2・3 年生についても、スタートアップ授業を実施していきます。
- ★ スムーズな統合に向けた取り組みを、ブログ等を活用しながら、いち早く情報発信をしていきます。

お忙しい時間帯にも関わらず、当日、ご出席していただきました保護者の方々におかれましては、厚くお礼申し上げます。

新春メッセージ

文化庁舞台芸術学校巡回公演

6月19日(水)

10:40～12:00

落語芸術協会

保護者の皆様も観覧OKです！



- ◆ 場所 本校体育館
- ◆ 出演者 三笑亭夢丸(真打) 笑福亭酒茶光(二つ目)
鏡味正二郎(太神楽曲芸) 足立奈保(お囃子)
桂伸都(前座) 伊藤崇将(事務局)

※ 本校児童からも3名の噺家と3名の出囃子演奏者が出演します！！